

# PCR検査 数日待ちも

新型コロナウイルスの変異株「オミクロン株」の拡大を受け、不安な人向けに自治体が無料のPCR検査を実施している。だが、感染者の急増で、予約が取りにくい状況が生じている。

各地で受けられるPCR検査や抗原検査には「行政検査」と「自費検査」がある。発熱などの症状がある人や濃厚接触者は、国が費用を負担する行政検査の対象。医療機関や保健所の指示により、無料で受ける。

原則、症状がない人が民間の検査機関などで受けるのが自費検査だ。費用は数千円から数万円と様々。厚生労働省によると、自費検査の場合には、医師の診断がなく、検査結果を通知するだけのところもあるという。

この検査で「陽性」が出ても医師の診断がなければ、保健所には連絡されない。「陽性」の診断には再検査がいる場合もある。自費検査の検査機関に提携する医療機関がない場合などは、自分で自治体の受診相談センターへ、医療機関に相談する必要がある。

今月15日に全国で実施されたPCR検査の件数は約17万2千件（暫定値）。民間の検査会社による自費検査は約7万件だった。

昨年12月下旬以降、無症状で濃厚接触者でもないが感染の不安がある人を対象に、PCR検査などの自費検査の一部を無料で受けられるよう

にする自治体が増加。朝日新聞調べでは今月23日現在、47都道府県全てで無料検査をしている。

一般的に民間の検査機関や薬局で受けられる。自治体ホームページなどで事業者を探せる。必要なら予約し、身分証明書を準備して窓口で申し込む。回数など詳細は各自治体で異なる。

沖縄県は不安のある住民対象の無料検査を県内27カ所で実施している（21日時点）。だが希望者も多く、「数日待ちという声もある」（担当者）。一方、県内2カ所の「接觸者PCR検査センター」では濃厚接触者のほか陽性者と接觸のあった人を検査している。予約が取りにくくなり、今月中旬、重症化リスクが高いとされる61歳以上の「高齢者枠」を設けた。

22日に感染者数が1万人を超えた東京都では、269カ所で無料検査を受けられる（21日時点）。1日3万件に対応できるとされるが、すぐには予約できないケースも。対象は無症状の都民。濃厚接触者でないが身近に感染者がいる人、高齢者施設を訪れる予定がある人、仕事などで多數と接する人らを想定している。

鳥取県は、感染者の早期発見につなげるため、受験で県外に行つた人らに「特に積極的に無料検査を受けて」と促している。同県内でも予約が取りにくい場所があるといふ。

（石川春菜、中井なつみ、畠山敦子）

## 全国で無症状者無料 沖縄では高齢者枠